



アイザック（本社・大阪市中央区、浜崎重孝社長）では、高度利用者向け緊急地震速報サービスで受信機をバージョンアップし、「ゆれぽーと」（写真）として新発売した。同サービスを導入することで、地震の揺れが来る前に館内放送や機器の制御が可能。大手メーカーの工場、物流センター、学校、集合住宅、病院、大型商業施設、企業等で導入が進んでいる。消防庁がまとめた「危険物施設の震災等対策ガイドライン」では、屋外タンク貯蔵所（タンクターミナル）の対策として「緊急遮断する設備の優先順位の検討」が推進項目に盛り込まれており、危険物を扱う施設での活用も期待できそうだ。

緊急地震速報は地震の発生直後に、震源に近い地震計でとらえた観測データを解析して震源や地震の規模（マグニチュード）をただちに推定。これに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を推定し、可能な限り素早く知らせる情報サービスのこと。全国に約4200個設置された地震計のデータは気象庁を経由し、専用回線でアイザックをはじめとする配信事業者に送信され、インターネット回線で接続された受信

機から「推定震度」と「余裕時間」を音声等で知らせる。

緊急地震速報受信機は「高度利用者向け」を採用。テレビや携帯電話で利用される広域エリアでの不特定多数に向けた「一般利用者向け」に比べて「高度利用者向け」は、「現地演算方式で、設置場所でピンポイントに震度を予測し、発報震度は自由に設定できる。また、専用端末は24時間365日受信が可能で、アイザックでは常時受信状況を監視している。最近の大きな地震で高度利用者向けと一般利用者向けを比較すると、発表されてからの猶予時間の時間差は高度利用者

高度利用者向けと一般利用者向けの発表比較一例

	震央・名称	発生日	到達地点例	発表されてからの猶予時間		時間差
				高度利用者向け	一般利用者向け	
①	東日本大震災	2011.03.11	東京都庁	震度5強 99秒前	35秒前	1分4秒
②	東日本大震災	2011.03.11	大阪市役所	震度3 178秒前	発表されない	2分58秒
③	淡路島地震	2013.04.13	大阪市役所	震度4 22秒前	10秒前	12秒
④	茨城県沖	2008.05.08	東京都庁	震度4 25秒前	間に合わない	25秒

向けでは一般利用者向けより1分程度の猶予があった。

高度利用者向け緊急地震速報サービスは「放送設備との連動」「施設・機器の制御」により、例えば工場等の現場では、全館放送やパトライトと連動し、作業者への危険告知、危険な設備の自動停止等に活用。また、病院、店舗、集合住宅では、エレベータ、自動ドア等の制御にも用いられており、こうした使い方は物流センターでも応用できる。一般利用者向けと異なり、高度利用者向けでは受信機のテスト発報ボタンを押すことで地震訓練も行うことができるため、対策のシミュレーションも可能だ。

アイザックでは高度利用者向け緊急地震速報受信機「ゆれぽーと」を新発売。従来品の「SIGNAL BEET（シグナルビート）」を

バージョンアップさせたもので、緊急地震速報のモニター出力が可能になり、地震の精度設定も向上。サイン音はNHKチャイムまたはREIC音を設定できるようになった。報知内容やカウントダウン設定もより柔軟になっており、インターネット経由で自動的にソフトのバージョンアップが行われる。また、常時2台の配信サーバーと接続し、片方がメンテナンス中にも配信を継続できる。

なお、「ゆれぽーと」の本体価格は9万8000円（税別）で、「シグナルビート」の23万8000円（同）より大幅にリーズナブルな価格となっている。月額配信料は1万2000円。

問い合わせは、電話06（6324）5800。